

第2回県南地域サイクルツーリズム推進協議会  
議事概要

- 1 日時  
令和4(2022)年7月11日(月) 10:30~11:30
- 2 場所  
Web会議
- 3 出席者  
別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 議事
  - (1) 県南地域モデルルートのご決定について
  - (2) 県南地域モデルルートのご名称のご決定について
  - (3) 走行環境整備について
  - (4) 情報発信・広報について
  - (5) 今後の進め方について
- 5 議事概要(結果)
  - ・事務局から県南地域モデルルート及びモデルルートのご名称について説明し、事務局案のとおりご決定された。
  - ・事務局から走行環境整備の方針について説明し、事務局案のとおり承認された。
  - ・事務局から情報発信・広報の方法について説明した。
- 6 委員の主な意見
  - (1) 県南地域モデルルートのご決定について  
事務局案のとおりご決定。
    - ①試走会について
      - 平山委員(足利市 代理:久保主査)
        - ・柵橋委員と共に市内のサイクルショップや観光資源を確認し、今後の展開が楽しみだとの意見をいただいた。
        - ・市では、市北部山間地域のヒルクライムを楽しめるような地形を活用したコースの設定など、サイクルツーリズムの取り組みを進めている。
        - ・また、モデルルートになっている渡良瀬川サイクリングルートのご河川堤防において、国の渡良瀬川河川事務所協力のもと、かわまちづくり事業を進めている。民間店舗の出店計画等があり、国や県のご協力を得ながら進めていきたい。
      - ②モデルルートについて
        - 津森委員(利根川上流河川事務所 代理:島田副所長)
          - ・渡良瀬遊水地内は、団体で高速走行するロードバイクと歩行者のご接触トラブルが問題となっているため、これ以上遊水地内にサイクリストのご通過交通を増やすのは現状では難しい。今回の事務局案で進めていただき、様子を見ていきたい。

(2) 県南地域モデルルート of 名称の決定について

- ・意見質疑なし。
- 事務局案のとおり、栃木県サイクリングルート“ワタラセ8”（ワタ8）で決定。

(3) 走行環境整備について

事務局案のとおり承認

- 篠原座長
  - ・先行して整備したナス1と同じ整備規格なのか。
- 事務局
  - ・同じ規格である。

(4) 情報発信・広報について

- 篠原座長
  - ・観光マップについては、県東地域サイクルツーリズム推進協議会にて、東浦委員から、必要としている人の手に届くよう、マーケティングを行った上で配布する必要があるとの意見があった。
- 高根沢委員（株栃木プロジェクトプロ）
  - ・首都圏や全国レベルでの配布が必要ではないか。全国のサイクリストが集まる那須高原ロングライドの場を活用すれば、参加者のエントリー情報を活用してターゲットを絞って配布できる。参加者の6割は1都7県、残りの4割はその他全国の都道府県から参加している。また、参加者の4割は宿泊している。
- 篠原座長
  - ・ルートの活用の議論をしっかりとすべきである。
  - ・上級者だけではなく中級・初級者にもお勧めできることを発信しなければならない。
- 金子委員（東武鉄道株 代理：岸氏）
  - ・県や自治体で何をしたいのか計画を鉄道事業者に示していただいた上で、議論を深めていく必要がある。
- 神宮委員（東日本旅客鉄道株）
  - ・駅前広場にてレンタサイクル事業を実施している駅もあるが、モデルルートを利用するお客さまへ直接PRするのは難しい。自治体等から相談を受ければできる限り協力していきたい。
- 若杉委員（那須ブラーゼン）
  - ・安全走行環境という点においては認識・認知が重要である。ソフトの部分で発信して参りたい。
- 大森委員（宇都宮大学）
  - ・県南地域は県北地域に比べて初心者向けの平坦なルートが多いため、観光マップやポータルサイトには、スタート地点やお勧めコースなどの情報を掲載したらよいと思う。

(5) 今後の進め方について

○篠原座長

- ・今年度中に走行環境整備と観光マップ作成が完了するのか。

○事務局

- ・今年度の完了を目標に進めて参る。

○船木委員（県地域振興課）

- ・観光マップを県外のサイクリストが参加するイベント等を活用して県外へ発信し、また地元の方にもしっかりとモデルルートを認知してもらうことで、県内外からのサイクリストを受け入れる体制を作り、地域にお金が落ちる仕組みを作る必要がある。

○檜森委員（渡良瀬河川事務所 代理：穴原副所長）

- ・本日決定したモデルルートが幹線となるが、今後は各市町が枝葉を作り、各地域へお金が落ちるようにする必要がある。  
また、ルールとマナーの取り組みとして鬼怒川サイクリングロードでの事例を参考にするとよい。

○高根沢委員（株栃木プロジェクトプロ）

- ・今後作成する観光マップやホームページにライドマナーを掲載する必要がある。
- ・県南地域のルートの魅力は、県北地域とは違い、オールシーズン楽しめることである。歴史物や文化物が点在していることも魅力である。

○（総括）篠原座長

何のためにこのルートを作るのか、改めて考えなければならない。マーケティングの考えに基づき、ターゲットを明確にした上で働きかけ、商売として成り立つように、各自治体の商工会など地元関係者と共有しながら具体的にサービスを付加していくことが大事である。

(6) その他

○癸生川委員（栃木市総合政策部）

- ・本市としては県に対して、渡良瀬遊水地周辺の既存のサイクリングロードを繋ぐ整備について要望しているのでよろしく願います。